資料2-1
2018.1.22

平成 29 年度の山部会の活動進捗報告

1. 山部会の目標とテーマ

山部会の 3 ヶ年（平成 28～30 年度）の活動テーマを以下に示す。

＜テーマ＞	＜解決手法＞
流域圏担い手づくり事例集	森林の適切な管理は山村再生が重要。先ずは人づくりに取り組む。
山村ミーティング	山村再生を支援する取組みへの参加・情報共有を行う。
森づくりガイドライン	流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。
木づかいガイドライン	矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。

≪3 ヶ年の目標≫
- ●WG の中で山村再生担い手づくり事例集について、より PR 力のあるものにする
- ●山村ミーティングや木づかいガイドライン等とWG の中で山村再生担い手づくり事例集によって築かれた人間関係とを連携させて、流域が関わるイベントを実施する
- ●WG の中で森づくりガイドラインについて、矢作川や水源かん養機能に配慮した森づくりの理念と具体的な方策を発信する
- ●WG の中で木づかいガイドラインの策定を行い、流域における水平展開を山部会構成メンバーで実行する

2. 今年度の活動実績

活動内容	日時	場所	活動内容
第 39 回WG（恵那）22 名参加	5 月 19 日（金）～20 日（土）14:00～	恵那市岩村振興事務所 会議室	・今年度の活動方針を確認し、活動内容を話し合った。 ・恵那市内のフィールドワーク（花白温泉、茅の宿とみだほか）
第 40 回WG（豊田）21 名参加	6 月 23 日（金）14:00～17:30	豊田森林組合庁舎 第 2・3 会議室	・4 つのテーマの進捗報告と意見交換
第 41 回WG（根羽）17 名参加	7 月 28 日（金）～29 日（土）14:00～	根羽村ネバーランド サンホール	・4 つのテーマの進捗報告と意見交換 ・根羽村内のフィールドワーク（信州大学研究フィールド、帯状間伐実施箇所）
第 42 回WG（恵那）13 名参加	9 月 8 日（金）～9 日（土）13:00～	恵那市串原振興事務所 串原コミュニティセンター 3 階会議室	・4 つのテーマの進捗報告と意見交換 ・勉強会（天竜峡において河川の高水敷に繁茂する竹林の利活用について）
第 43 回WG（岡崎）42 名参加	10 月 13 日（金）～14 日（土）14:00～	岡崎市「ぬかた会館」 2 階 2～3 会議室	・3 つのテーマの進捗報告と意見交換 ・岡崎市内のフィールドワーク（ぬかた体験村）
第 44 回WG（根羽）11 名参加	11 月 10 日（金）13:30～16:30	根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」	・3 つのテーマ（山村ミーティングを除く）の進捗報告と意見交換
第 45 回WG（豊田）27 名参加	12 月 15 日（金）～16 日（土）14:00～	豊田森林組合庁舎 第 2・3 会議室	・4 つのテーマの情報提供と意見交換 ・豊田市内のフィールドワーク（ちんちゃん亭・あさひ森の健康診断報告会）

※参加人数は事務局含む

（2012.5.19 修正版）

出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有

検討の進め方

山村をとりまく社会背景の変遷と望ましい将来像

STEP1

過去と現在を
知　る

理解と情報共有を促進する

右に記載した事項について、具体的に「知る」機会を設け、情報共有を図る
→ 市民企画会議
→ 勉強会で対応

実現に向けた課題と解決手法

STEP2

未来像実現に向けた課題と解決手法を
考える

情報共有を踏まえ、まず「人の問題」をテーマに解決手法を検討
→ 市民会議
→ 地域部会で対応

STEP3

できることから活動を
実践する

	人と山村	森　林
高度経済成長前から後へ	●自給的経済、自立、自治、誇りがあった。 ●百業をやっていた。	●薪炭林施業が行われていた。 ●最上流域や額田地区ではスギ、ヒノキ人工林施業が行われていた。 ●藤岡・小原・旧豊田・岡崎にはハゲ山も多かった。
現代	●若者が中下流の都市へ流出した。 ●拡大造林によって広大な人工林が形成され、長期間管理し続ける必要があったが、その担い手がいなくなった。	●もともと林業地だったところでも、そうでないところでも、もうかるというもくろみと国策により、拡大造林（広葉樹からヒノキ、スギへ転換）を推進した。 ●国産材を流通させる仕組みが輸入木材に比べて整わず、国産材の価格が低下し、林業が業として成り立たなくなった。
近未来（放っておくとどうなるか）	●山村における若者の就業機会が乏しい。就業できても定着できない。 ●現代では、山村は過疎化、少子化、高齢化、核家族化が進行している。	●もともと林業地でなかった地域では、多くの所有者が素人山主で林業を知らない。 ●管理が行き届かないため過密化した水消費型森林や放置人工林からの土砂流出・崩壊の危険性が増加している。
望ましい未来象	●限界集落、消滅する集落が増えていく。残された集落でも山村単独での自治や経済的な自立が困難となり、コミュニテイが崩壊する。 ●国、県、市町村ごと、部局ごとに目指す森林の姿がバラバラで、流域圏一体となった森林管理が行われていない。	●林業は利益を確保せざるを得ないことから、森林皆伐後の再造林の放棄が起こり、森林の水土保全機能が喪失する。 ●不適切な林道・作業道・搬出路が作られ、放置され、土砂が流出し、崩壊の危険性が高まる。
	●流域圏にとって望ましい山村のあり方は、収入は多くなくても安定した若者の仕事があり、山村の資源を持続可能なやり方で利用しつつ、経済的に自立すること。 ●自然の恵みを利用できる知恵のある人が定住していること。	●流域圏にとって望ましい森林は、自然の力で持続する生態系と人による持続的な維持管理下に置かれる生態系が最適に配置され、多様な生物が生息し、木材や水などの恵みを中下流にもたらしてくれる森林。 ●木材生産を主目的として管理する森林と、水土保全機能の発揮を主目的として管理する森林を区分し、木材生産に適さない人工林を天然林に戻していく。

実現のための課題と解決手法

森林の適切な管理は、まず山村の再生（担い手作り）から！

当面の課題1　誰がやるか（人と地域の問題）

課題

●現金収入、仕事、医療、教育など、出発点に到達する以前の問題が山積。

解決手法（例）

●既に自発的に始まっている優れた取組を集めた「山村再生担い手づくり事例集」の策定やＩターンした若者のミーティングを通じ、山村再生の担い手作りを支援する具体的な方策を検討する。
●上下流をビジネスサイクルでつなぐ産業振興（流域フェアトレード）の推進（中下流都市中心部での上流生産物販売拠点の設置など）

役割分担

市民・学識経験者・行政が、対等な立場で、一体となって推進していく。

山村再生のために先ず"人づくり"が必要そのうえで"森づくり"にも取り組む必要がある。

担い手づくり事例集イメージ

- 山村再生担い手づくり事例集
  - 成功事例1
  - 成功事例2
  - 失敗事例1
  - ……

当面の課題2　何をやるか（森の問題）

課題

●流域圏として統一性のある森林管理を行い、矢作川の森の恵みが中下流や海までいきとどくためのガイドラインが必要。
●データ不足・研究の遅れによって、「植林こそが正しい」といった誤解を正すことが必要。

解決手法（例）

●「矢作川流域圏の森づくり・木づかいガイドライン」の策定
●モデル林の設定とモニタリング
→ガイドラインの検証のため、土砂を流す森、節水型森林の手本を作る。

行政・学識経験者・市民が対等な立場で、一体となって策定

役割分担

市民・学識経験者・行政が、対等な立場で、一体となってガイドラインを策定し、モデル林を設計、施業、研究し、モニタリングを行っていく。

3. 山部会　平成 28 年度の活動成果　まとめ

流域圏担い手づくり事例集

【成果①】

・これまでに作成した山村再生担い手づくり事例集の取材先の団体と取材者を対象とした交流会を 4 月に行った。新たな発想の展開や人間関係を育む場として、大変有意義なイベントになった。

事例集交流会の様子

【成果②】

・山村から流域に視野を広げるため、川部会のテーマである地先モデルと協働して、流域の発展に寄与する団体の取材を行うことになった。それに伴い、テーマの名称も「山村再生担い手づくり事例集」から「流域圏担い手づくり事例集」に変更した。

川部会における意見交換

【成果③】

・流域圏担い手づくり事例集を作成するため、山に関係する 12 団体、川に関係する 9 団体、合計 21 団体を訪問し、レポートの作成を行った。

【成果④】

・事例集作成に関った取材先と取材者の交流会を平成 30 年 4 月 14 日（土）～15 日（日）に佐久島で実施することになった。

山村ミーティング

【成果①】

・流域の山の担い手の現状を把握するため、根羽村森林組合、恵南森林組合、豊田森林組合、岡崎森林組合の作業班を中心とした 100 人ヒヤリングを開始した。

ヒヤリング時の作業風景（恵那市）

【成果②】

・矢作川感謝祭（仮称）については、秋の流域全体の恒例行事化にむけて実行委員会を立ち上げ、意見交換の場を拡大した。

【成果③】

・足助もみじ市まつりに代わるイベントの開催については、懇談会メンバーも主催者に加われるよう関係団体（豊田森林組合など）に働きかけた。

矢作川感謝祭の開催状況（豊田市）

森づくりガイドライン

【成果①】

・豊田市の森づくり構想の見直しに関して、**①保全に対するルール　②地域材利用の強化　③人材の確保・育成・活用**について情報共有と意見交換を行った。

【成果②】

・岡崎市の**水環境創造プランのうち水量に関する施策の見直しの進捗状況、緑のダム部会の答申をうけた動き、岡崎市環境政策課内の森林企画係の新設**について情報共有と意見交換を行った。

【成果③】

・森づくりガイドラインの策定に向けて、**素案が提示され、内容に関しての意見交換を行った**。

【成果④】

・矢作川流域市村における 2005 年度以降の間伐面積の推移について情報共有を行い、各地域の実状について意見交換を行った。

【成果⑤】

・森づくりに関するフィールドワークを行った（信州大学研究フィールド、根羽村の帯状間伐の実施箇所　など）。

森づくりに関する意見交換の様子

フィールドワークの状況

木づかいガイドライン

【成果①】

・木づかいガイドライン策定に向けて、「さあ～しよう」という提案型の原稿作成のための依頼書について、**流域圏担い手づくり事例集の団体を対象にするなど、他のテーマとの連携**を視野に入れ、意見交換を行った。

【成果②】

・根羽村森林組合では、**木づかいに関するイベントを年間 40 箇所程度開催**した。特に、9 月 2 日に豊田市で開催された**矢作川感謝祭では、木づかい推進とともに矢作川流域圏懇談会を PR する**ことができた。

【成果③】

・木づかいに関する流域市民のツールとして、昨年度の「**流域ものさし」に加え、「どこでもライブラリー（根羽スギを使った本箱）」**を展開した。

【成果④】

・木づかいに関するフィールドワーク（やまおか木の駅、天竜峡舟下り、ちんちゃん亭　ほか）を行った。

木づかい関する意見交換の様子

根羽スギを使った本箱づくり

4. 各テーマの活動成果

4.1　山村再生担い手づくり事例集

(1) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針】

〇事例集の取材者、取材先、流域圏懇談会、読者のネットワークをいっそう広げ、深めることをめざした事例集交流会を 4 月に実施する。

≪進捗状況≫

・事例集交流会 2017 を開催し、参加者による活発な意見交換が行われ、有意義なイベントになった。
・事例集の参加者が新たな懇談会員に加わり、その後のＷＧに出席するなど、ネットワークが広がった。

〇事例集Ⅱを対象にした「その後いかがお過ごしですか？プロジェクト」を実施する。

≪進捗状況≫

・懇談会結成 9 年目を見据えて、山以外の担い手にも視野を広げる必要性があると判断されたため、川部会の地先モデルと連携して、川の担い手にも取材を行うことになった。

〇山村ミーティングや木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携を深める。

≪進捗状況≫

・事例集交流会の参加者に矢作川感謝祭の参加を募るなど、他のテーマとの連携を深めた。

(2) 今年度の活動成果

1) 流域圏担い手づくり事例集の作成

・矢作川流域圏懇談会は 8 年目をむかえ、流域全体に視野を広げる必要性から、昨年度までの『山村再生担い手づくり事例集』を改め、<u>誰もがイメージできるように『流域圏担い手づくり事例集』として作成</u>を進めた。

・<u>川部会のテーマのひとつである地先モデルと協働</u>し、山の関係 12 団体、川の関係 9 団体　合計 21 団体を対象に取材を行うとともに、レポートを作成した。

・<u>山だけでなく川に関する団体も、流域の次世代を担う重要な役割を果たしていることがわかった</u>。

川部会における意見交換

「環境ボランティアサークル亀の子隊」の取材状況

2) 事例集関係者を対象とした交流会の実施

・事例集の作成で築かれた人のつながりを深め、広めることをめざして「事例集交流会 2017」を開催した。ここでは、<u>活発な意見交換が行われ、有意義なイベントとなった</u>。

開催日：平成 29 年 4 月 15 日（土）～16 日（日）
開催場所：根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」、グリーンハウス森沢（宿泊）
対象：山村再生担い手づくり事例集に掲載された団体と取材者
内容：根羽村森林組合、奥矢作森林塾、とよた都市農山村交流ネットワーク、豊森なりわい塾、
　　株式会社 M-easy、農業生産法人 みどりの里、額田木の駅プロジェクト実行委員会
　　以上 7 団体より現在の活動状況の報告、意見交換

・WG では、<u>新たに事例集交流会 2018 を行う</u>ことになり、<u>佐久島（平成 30 年 4 月 14 日）で行う</u>ことを決定した。

4.2　山村ミーティング

(1) 今年度の活動方針に関する進捗状況

【活動方針】

〇森林組合作業班員を対象とした 100 人ヒヤリングを進める。

≪進捗状況≫

・10 月以降、岡崎と豊田においてヒヤリングを開始している。

〇矢作川感謝祭を流域全体のまつりと位置づけ、実施できるよう実行委員会のメンバーとして企画していく。

≪進捗状況≫

・山部会の関係者も実行委員として加わり、上下流の農林業に係る人々が参加した。豊田市対象から流域対象のイベントに進化した。

〇山村再生担い手づくり事例集や木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携を深める。

≪進捗状況≫

・事例集交流会におけるイベントの周知やイベントにおける木づかいを通して、他テーマとの連携に努めている。

(2) 今年度の活動成果

1) 矢作川流域林業担い手 100 人ヒヤリングの実施状況

・7 月以降、豊田森林組合と岡崎森林組合に調査協力依頼を行い、承認をえられたため、**10 月より岡崎森林組合管内、豊田森林組合管内でヒヤリングを開始**した。ヒヤリングでは、森林組合作業班員の本音を聞くことができた。

・今後も岡崎、豊田森林組合管内のヒヤリングを進めるとともに、上流部の恵南森林組合、根羽村森林組合の森林作業班員へのヒヤリングを行う。

2) 矢作川感謝祭への懇談会としての参加

・これまでは、豊田市民を対象とする川のイベントだったが、今年度は**山部会の部会員も実行委員会に加わり、矢作川の上下流の農業、林業といった山の関係者も参加する流域を対象としたイベントに拡大**した。

ヒヤリング時の作業風景（恵那市）

矢作川感謝祭の実行委員

矢作川感謝祭の実施状況

4.3　森づくりガイドライン

(1) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針】

○岡崎市、豊田市における森づくりの動きについて、WG として把握し、情報共有と意見交換を行う。

≪進捗状況≫

・岡崎市における水循環施策の動き、豊田市における森づくり構想の見直しについて、最新事例を共有するとともに、意見交換を行った。

○岡崎市と豊田市で共通理解となった水源かん養機能や矢作川に配慮した森づくりの理念と具体的な方策をとりまとめる。

≪進捗状況≫

・流域市村の動向を把握したうえで、森づくりガイドラインに盛り込む項目案を周知し、意見交換を行った。

○水循環基本法に基づく健全な水循環の維持・回復を目標として、水の貯留・かん養機能の向上や土砂の流出抑制を図るため、矢作川流域の独自性を加味した森づくりのガイドライン作成に取り組む。

≪進捗状況≫

・森づくりガイドラインに盛り込む項目案に沿って、矢作川流域の独自性を加味した素案が提示され、意見交換を行った。

(2) 今年度の活動成果

1) 行政の森づくりに対する取組みの周知

・豊田市より森づくり構想見直しの 5 つの重点事項（①保全に対するルールの設定 ②地域材利用の強化 ③人材の確保・育成・活用 ④森林の整備目標の数値等の検討　⑤市内森林のゾーニング）のうち、①、②、③について紹介と意見交換を行い、**中核製材工場稼働開始を見据えた動きや森づくり会議の果たす役割**について学んだ。

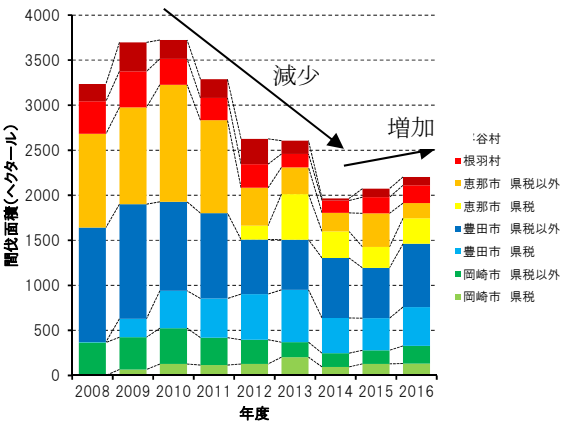
・岡崎市より**緑のダム部会からの答申をうけて、財源確保に向けた動き**が報告された。また、市役所の環境政策課内に新たに新設された森林企画係について、**水循環と保全啓発業務を担う**ことが周知された。

・**国の森林環境税の新設をめぐる動き**について、情報共有と意見交換を行った。

・九州北部豪雨について、東海豪雨との比較を行いながら、**森づくりの重要性**を話し合った。

・流域市村の間伐面積の推移では、平成 27 年度以降、増加がみられたが、**間伐適期を過ぎた林分が多いため、今後は再び減少に転じると予想**された。

森づくりに関する意見交換



矢作川流域市村における近年の間伐面積の推移

2）森づくりガイドライン策定に向けた項目案の提示と意見交換

・平成 30 年度に始動する豊田市での中核製材工場、平成 29 年岡崎市の水環境創造プランのうち水量に関する施策の見直し、豊田市森づくり構想の見直しを背景に森づくりガイドラインを策定する。今年度は、以下の項目に沿った素案（1～3 について）が提示され、意見交換を行った。

〔ガイドラインに盛り込む項目案〕

1. 矢作川流域の森づくりについての基本的な考え方
（木材生産と公益的機能のバランス、森林所有者や市民の責務など）
2. 皆伐一斉造林についての考え方（風化花崗岩地帯では、10～20 年後に崩壊のリスク増大、搬出方法（架線系・道路系）、ニホンジカ食害リスク
3. 搬出間伐についての考え方（間伐率、搬出方法（架線系・道路系））
4. 伐り置き間伐についての考え方（置き方など）
5. 渓流沿いの人工林についての考え方（流木リスク軽減のための樹木除去など）
6. 尾根筋の人工林についての考え方（針広混交林化など）
7. 広葉樹二次林についての考え方
8. その他

3）流域の森林の研究成果について

・信州大学農学部より、根羽村での研究結果が報告された。内容は「林道が生物多様性に与える影響評価」および「矢作川源流域のヒノキ・サワラを主体とする温帯性針広混交林」であり、最上流域の森林の特徴を知ることができた。

研究結果の報告

4）森づくりに係わるフィールドワークの実施

・フィールドワークを行い、矢作川流域の森林・林業の現状と今後の利活用について学んだ。

①信州大学研究フィールド（根羽村）　②帯状間伐の実施状況（根羽村）
③天竜川における竹林管理（飯田市）　④あさひ森の健康診断報告会（豊田市）

帯状間伐の実施状況（根羽村）

天竜川における竹林伐採箇所の現状（飯田市）

4.4　木づかいガイドライン

(1)　今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針】

〇流域ものさしと私の流域物語を使って、ひとり一人が流域の魅力を発揮する。

≪進捗状況≫

・流域ものさしの活用実績と今後の改善、取組みについて意見交換を行った。懇談会としての私の流域物語は今後の課題である。

〇どこでもシリーズを使い、旬の時期に旬のお祭りを開催する。

≪進捗状況≫

・今年度も引き続き実績を重ねており、市民のニーズに合わせた木づかいを推進している。

〇流域の魅力を創造する市民創造、労働参加型プロジェクトに取り組む。

≪進捗状況≫

・根羽村が主体となって行う「根羽村田舎の親戚制度実施要項」の原案を村の委託事業により根羽村森林組合が作成した。

〇市民労働参加型プレイスメイキングプロジェクトを考える。

≪進捗状況≫

・あそべるとよた 4days では、地元豊田市図書館及び地元商業施設 T フェイスと連携して、どこでもライブラリーにおける根羽スギを使った本箱を製作し、本のある空間を創出した。

(2)　今年度の活動成果

1）木づかいの推進に関する実績と提案

・木づかいの推進については、根羽村森林組合が中心となって「木づかいライブ・スギダラキャラバン」を進めており、平成 29 年度は **40 箇所程度（流域内外）の地域に出前授業**を行った。

・木づかい推進における流域市民のツールとして、昨年度の「流域ものさし」に加え、**「どこでもライブラリー（根羽スギを使った本箱）」も有効である**ことがわかった。あそべるとよた 4days における出展では、高い評価を得た。

・昨年度の全体会議で配布された「流域ものさし」について、**使用実績と新たな改善箇所の依頼**を受けた。

安城市における木づかい推進の様子

どこでもライブラリー 本箱づくり

2）木づかいガイドライン策定に向けた活動の情報共有

・「さあ～しよう」という提案型の原稿作成の依頼書について、**流域圏担い手づくり事例集の関係者、イベント実施時の関係者に呼び掛けるなど、具体的な対象者・想定内容について意見交換を行った**。

【木づかいガイドラインの意図するところ】

①市民、行政、業界、研究機関の各関係者と有志が流域内の「木づかい推進」に一体感・共感・共通認識を持って取り組むこと
②現在流域内の各地で行われている様々な立場の方の魅力的で楽しい「木づかい」の取組みを「見える化」すること
③「見える化」された木づかい推進活動の有志の方々と「人の輪」をつくること「繋ぐ」ことがとても大切で、ここに流域で取り組む市民活動化の意義がある
④その「人の輪」による様々な化学反応により、流域内の各地で市民に「木づかい」に対する魅力や楽しみを伝え、共感と活動を呼び起こすこと
⑤木づかい提案者ひとり一人の培ってきた森や木に対する経験値を重視し、提案者とその受け手がチームとなって、木づかいの主役と立役者のコンビで木の魅力を発信していくこと
⑥山村再生担い手づくり事例集にあるような様々な地域の様々な山村・里山活動家が「木づかい推進」というテーマで「繋がり」、それぞれが主役になって「木づかいネット網」として連携し、すべての年代層を対象にした「木づかい」の原体験を与えること
⑦「木づかいガイドライン」を手に取ると、すぐに行動したくなるような「さあ～しよう」という市民目線に沿った提案とすること
⑧日本人として木の文化を身近なものにすること

3）木づかいに係わるフィールドワーク（勉強会）の実施

・フィールドワークを行うことで、木づかいに関する新たな活用事例を学ぶとともに、流域内の汎用性を検討した。

①やまおか木の駅（恵那市）　②天竜峡舟下り（飯田市）　③ちんちゃん亭（豊田市）

木の駅・薪の駅の見学（恵那市）

天竜舟下り（飯田市）

4）今年度成果をうけた今後の取り組み

○流域の魅力を創造する市民創造、労働参加型プロジェクトの取り組み

→今後、この制度の施行により、矢作川下流域の市民が根羽村を訪れ根羽村の村民と田舎の親戚関係を結ぶことにより、根羽村のフィールドで根羽村の田舎の先生から様々な田舎の技術・技能を学ぶことが可能となる。また、併せて活動拠点となるような小屋の設置や、田舎の技術・技能等の参考図書を置いたブックカフェなど魅力的な週末交流施設を併設することにより、田舎の親戚になられた方同士の交流を進める。

○市民労働参加型プレイスメイキングプロジェクトの取り組み

→今後、こうした都市部における地元施設との連携による市民を対象としたプレイスメイキングプロジェクトと、根羽村等山村部における上記の田舎の親戚等、根羽村を訪れる方々の参加による市民労働参加型プレイスメイキングプロジェクトを実践する。

当面、根羽村において清冽な矢作川源流の流れや滝に親しみ、源流部の水の透明感を楽しめる魅力的な源流部のポイントを設定し、それに併せた渓谷の階段づくり、渓谷歩道づくり、チュービングによる川下りポイントの整備を進める。このため、身近な里山林分の間伐材を利用して階段材料を作成する。

さらに、個人森林所有者の協力を得て、植栽から始める花のオーダーメイドの山づくりを地元中学生による労働参加型プレイスメイキングとして、共に企画している。

矢作川流域圏懇談会通信

H29 山部会編 vol.1

発　行　日：平成 29 年６月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第３９回山部会WGを開催しました！

５月19日(金)～20(土)に第39回山部会WGが恵那市岩村振興事務所にて開催されました。今回の WG では、山村再生担い手づくり事例集、山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドラインに関して、今年度の活動内容を話し合いました。

日　時：平成２９年５月１９日（金）～２０日（土）
場　所：恵那市岩村振興事務所　会議室
参加者：２２名（事務局含む）

◆主な会議内容

１．山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集では、平成 27 年度までの３ヶ年に矢作川流域市町村から山村漁村の振興に貢献する 64 団体の取材を行い、３ 冊の事例集を発行しました。昨年度は、『**その後いかがお過ごしですか?プロジェクト**』を立ち上げ、初年度に取材を行った団体を対象に再取材し、レポートにまとめました。さらに、その成果を発表する場として、４月に**事例集交流会**を行いました。流域を支える若者の活動を間近で見ることができ、とても有意義なイベントでした。新年度にあたり、昨年度の活動の成果を報告するとともに、今年度の活動計画について意見交換をします。

２．矢作川流域山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、昨年度に引き続き、以下の２項目の実現に向けて活動したいと考えています。

① **矢作川感謝祭（仮称）：**
【開催日】９月２日（土）　**【対象】**矢作川流域全体（1,000 人規模）　**【山としての参加形態】**木づかい推進

② **矢作川流域林業担い手ヒヤリング（仮称）：**
【実施時期】６ 月以降　**【対象】**根羽・恵南・豊田・岡崎森林組合の作業班および林業事業体社員（「緑の雇用」の支援制度を終えた就業４年目以上 55 歳未満）または他産業への離脱者

３．矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインでは、以下の２点について情報共有します。

① **流域市村の間伐面積の推移**
流域市村の林業の動向を把握するため、関係団体への情報収集を継続します。

② **森づくりガイドラインの策定に向けて**
中規模製材工場の稼働、豊田市と岡崎市が森づくりの新たな構想を打ち出す状況の中で、以下の項目案で取りまとめを行いたいと思います。
１）矢作川流域圏の森づくりについての基本的な考え方、２）皆伐一斉造林についての考え方、３）搬出間伐についての考え方、４）伐り置き間伐についての考え方、５）渓流沿いの人工林についての考え方、６）尾根筋の人工林についての考え方、７）広葉二次林についての考え方、８）その他

４．矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインでは、以下の３点について情報共有と意見交換をします。

①スギダラキャラバンの年間スケジュール
②「大好きな本、皆に読んでもらいたい本をもって集まろう。木づかいライブ、木のブックボックスによる速攻『まちかどライブラリー』プロジェクト」
③木づかいガイドラインの策定に向けて

５．その他（愛知県から三河湾大感謝祭への参加依頼について）

第４回三河湾大感謝祭が以下の内容・日程で開催されることになりました。出展ブースとしての出し物のほか、パネル展示やシンポジウムでの発表なども可能です。出展ブースについては、根羽村森林組合にご参加いただきたいと考えています。
【目的】多くの人々に三河湾に関心を持ってもらうこと（三河湾再生を担う団体や上流域で活動する団体との交流がテーマ）
【日時】平成 29 年 10 月 29 日（日）　午前 10 時～午後４時　**【場所】**蒲郡市民会館　**【主催】**愛知県

◆話し合いでの主な意見 （• 意見　➢回答）

●山村再生担い手づくり事例集について

- 今年度は、『その後いかがお過ごしですか？プロジェクト』として、平成 26 年度に取材を行った団体を対象に再取材を行いたいと考えている。（洲崎）
  - ➢ ３年前と大きく変わらない団体に対して、同じ趣旨のプロジェクトを継続するには少々無理がある。（丹羽）
- 再取材を行う団体と新たに取材を行う団体をミックスしてはどうか。（浅田）
  - ➢ メインは新規取材団体として、その中に再取材を交えるハイブリットタイプで良いと思われる。（蔵治）
- 萩野、敷島、和合など自治区を取材することも可能である。（山本）
  - ➢ 自治区といえば、恵那だけでも串原や上矢作などがあげられ面白いと思う。（丹羽）
- ７月までに新たに取り上げたい個人・団体を挙げてほしい。（洲崎）

●矢作川流域圏山村ミーティングについて

≪矢作川感謝祭（仮称）≫

- 今年は豊田市のみを対象とするのではなく、流域全体の祭にすることになった。（丹羽）
- 山は具体的にどんな形で参加するのか。（山本）
  - ➢ 今年は木づかいをメインとする。今後は、ふだん市民が見ることのない山師、杣師のカッコ良さを示すイベント、アマチュアの楽しさを流域に伝えるイベントにしたい。（丹羽）

≪矢作川流域林業担い手ヒヤリング（仮称）≫

- 流域の森林整備は、ほぼ 100%が森林組合および事業体の現場作業班が担っている。その若手現場作業員の多くは他産業からの志の高い転職、Ｉターン者である。かつては新人教育と定着が大きな課題であったが、現在は中堅技術者の他産業への離脱が深刻な課題となっている。このことを今回のテーマとしたい。（丹羽）
- 我が国は林業をとりまく教育制度が整備されていない。そのため、目標林型といってもピンとこない。（丹羽）
  - ➢ 昨今、我が国には林業大学校というのが増えている。ただ、まだ愛知県にはなく、安城農林や猿投農林高等学校がその役目を担っている。（蔵治）

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- 策定項目の中に広葉二次林が含まれるのは、それを育んできた知識や技術が消えているからか。（丹羽）
  - ➢ そのとおりで、広葉二次林を継承することが大事と考えるからだ。流域の中で、広葉二次林を管理する事例があれば紹介してほしい。（蔵治）
- 山林を手放した人たちの土地をどう集めるか、森林を管理する上での規模、低コスト化などをどこに含めるのか。また、補助金に関しては、上下流の関係性を生態系サービスの観点から整理する必要があると思う。（城田）
  - ➢ 行政的立場ではなく、あくまで流域圏にとってふさわしい立場で整理したいと考えている。（蔵治）

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- 知らないうちに今村さんに感化されて、今では木づかいにはまっている。組手什は渋谷の東急ハンズで取り扱いを始めた。色々な場面で木づかいが動き始めていると感じる。（丹羽）
  - ➢ 木の分野は無尽蔵で、日本の中でもすごく展望のある分野だと思っている。（山本）
- 年間の木づかいライブ・スギダラキャラバンに以下の日程を追加してほしい。（丹羽、服部、洲崎）
  【矢作川感謝祭（豊田大橋東側河川敷）】９月２日（土）　【三河湾大感謝祭（蒲郡市民会館）】10 月 29 日（日）
  【いなかとまちの文化祭（豊田市駅前北街区）】11 月 25 日（土）

◆恵那市におけるフィールドワーク

①花白温泉
（案内人：丹羽健司さん）
間伐材の利活用に関して、地産地消の仕組みを学んだ。
②茅の宿とみだ
（案内人：立松昌朗さん）
古民家の再生方法、都市と農村の人々の繋がりを学んだ。

今後のスケジュール（予定）

次回の山部会 WG は、６月２３日（金）豊田市（足助）にて開催します。

◆お問合せ◆
矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　指導官 小林、調査係長 服部
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100

＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H29 山部会編 vol.2

発　行　日：平成 29 年７月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 40 回山部会WGを開催しました！

6 月 23 日(金)に第 40 回山部会WGが豊田市足助地区にて開催されました。今回のWG では、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域森づくりガイドライン、矢作川流域木づかいガイドラインに関して、現時点の活動状況と今後の予定について情報共有と意見交換を行いました。

日　時：平成 29年６月 23 日（金）　14:00～17:30
場　所：豊田森林組合庁舎　第２･３会議室　　参加者：21 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1．山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集は、平成 27 年度までの３ヶ年に矢作川流域市町村から山村漁村の振興に貢献する 64 団体への取材を行い、とりまとめたものです。
昨年度は、“山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクト”として平成 25 年度に取材を行った団体に対して再取材を行い、新たな深化を確認しました。４月の事例集交流会では、担い手による報告と活発な意見交換ができました。
今年度は、５月の WG を受けて、新しい団体に対する取材をメインとして、再取材を交えることにしたいと考えています。また、流域連携を視野に、川に関する担い手にも注目したいと思います。現在、次月の川部会に対して、事例集作成のお誘いを提案しています。

2．矢作川流域山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、ひき続き、以下の２項目を進めていきます。

（1）矢作川感謝祭（９月２日実施予定）
川主体のお祭りに山が加わることになり、今年は木づかい推進（根羽村森林組合）を行います。

（2）「矢作川流域林業就労中堅離職問題実態調査」～矢作川流域林業担い手 100 人ヒヤリング～
【調査目的】林業への新規参入者の定着後離職の原因究明と対策策定のため
【調査対象】林業事業体および林業事業体就業後４年以上 55 歳未満の技能員
【調査期間】2017 年７月～2019 年３月　【調査手法】対面聞き取り調査
【調査結果の活用】①報告書刊行、「森の健康診断」ポータルサイトに掲示
②結果報告・交流会の開催（2019 年３月）

3．矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインでは、以下の３項目について情報共有します。

（1）流域市村の間伐面積の推移
平成 27 年度以降、根羽・平谷で増加・横ばい、恵那では減少していました。

（2）大阪府の森林環境税を使った取組み（小学生配布用のチラシ）
森林環境税の使い道（事例）について、大阪府の状況を知りました。

（3）豊田市の森づくり構想の見直しについて（豊田市産業部森林課　鈴木春彦様）
見直しのポイントとして、以下の５つを重点事項としています。このうち①、②、③について、詳細にご説明いただきました。
①保全に関するルールの設定　②地域材利用の活性化　③人材の確保・活用
④森林の整備目標の数値等の検討　⑤市内森林のゾーニング

4．矢作川流域木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインでは、以下の５項目について情報共有します。
（1）国際ウッドフェアへの参加　（2）根羽スギセレクション（カタログ）完成報告
（3）根羽スギにおける森林認証（SGEC）と木材流通認証（COC）の取得
（4）木を使った市民参加型のプレイスメイキング（ブックボックスの活用）
（5）安城市図書館（アンフォーレ）オープニングフェスへの出展

◆話し合いでの主な意見 （・意見 ➢回答）

●山村再生担い手づくり事例集について

- 目的は２つあって、山村の取材先の話と川部会との連携の話だ。事例集が２種類できるということか。（蔵治）
  - ➢ １種類で良いと思う。川の取材先が増えるようであれば、流域再生を謳うのも可能だと思う。（丹羽）
- 音楽祭などが取材先になるなど、だんだん山村という範疇から離れて拡大しつつある。むしろ、流域再生と言ってしまっても良いのではないか。（蔵治）
  - ➢ 今まで山村がメインで海や川の団体を少し入れる程度であった。そろそろ流域全体に目を向ける時期でもあるので**「流域再生担い手づくり事例集」**にして、対象範囲を拡大したいと思う。（洲崎）
- 天竜川では、増えてしまった竹林の抑制対策として筏の材料、竹炭、食材などに利用する天竜船下り会社というのがある。矢作川流域の竹林整備にも関係するので、是非取材先にしてはどうか。（今村）
  - ➢ 勉強会にして、川や海からも参加できるようにしてはどうか。（蔵治）

●矢作川流域圏山村ミーティングについて

≪矢作川感謝祭≫

- このイベントの対象は流域なので、岡崎も根羽も関係する。これからも流域にこだわっていきたい。（丹羽）
- 東幡豆漁協に参加して欲しいので、国土交通省から声をかけてもらいたい。（高橋）
  - ➢ 運送手段など物理的な支援を含め、できる限り応えるようにしたい。（服部）

≪矢作川流域林業就労中堅離職問題実態調査≫

- ８月を目途に、流域の４つの事業体（根羽村、恵南、豊田、岡崎の各森林組合）に対して、協力依頼をする。（丹羽）
- 西垣林業、豊田や岡崎の自伐林家や小規模事業体も是非対象にしてほしい。（蔵治）
  - ➢ 大規模な事業体の調査を終えた後、規模の小さな企業体や個人に目を向けたいと思う。（丹羽）

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

≪矢作川流域市村の間伐面積の推移≫

- 恵那市においては、搬出間伐メインになり間伐面積の減少がみられた。また、根羽村においては、間伐適期を過ぎた林分が増加し、今後は間伐面積が減少するものと見込まれている。（石原）
  - ➢ 今後は主伐面積の合計もデータに加える必要があるかもしれない。（蔵治）

≪豊田市の森づくり構想の見直しについて≫

- 来年から豊田市において中核製材工場が稼働する。初年度は 25,000 立米、５年後には 45,000 立米の原木処理を見込んでいる。また、その半分以上を豊田市産材で賄いたいと考えている。（鈴木）
- 地域材に関して、森林認証を取得する方針はあるか。（板坂）
  - ➢ 調査研究の一環として、市有林の一部に対しSGEC という日本の認証を取得しようと動いている。（鈴木）
- 林業の集約化や機械の大型化を進めることは、山主の山離れを一層加速させないか。我々は、山主の山離れを阻止するために、木の駅プロジェクトや森の健康診断を進めてきた。（丹羽）
  - ➢ 森林組合と地域と市の３者でその土地の歴史や課題を議論する森づくり会議を設置している。（鈴木）
- もちろん木材生産量の増加は重要であるが、地域住民が何を望んでいるかという視点も大切にして欲しい。（蔵治）
- 森林の適切な管理のためには、流域住民の意識改革が不可欠であり、行政にはその説明責任を果たしてほしい。（林）

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- 組手什(くでじゅう)を東京の量販店で販売して７年になるが、今では１本 1,000 円にも関わらず、月に１万本が飛ぶように売れている。下手な合板より安いことと、気づかいの価値が消費者に浸透してきたと感じる。（丹羽）
- ８月 19-20 日に予定される安城市の図書館のオープニングフェスでは、通常の木づかいに加えて、夜は根羽の食材をふんだんに使ったバーベキューで大いに盛り上がり、木づかい推進の集大成にしたい。（今村）
  - ➢ ちょうど山部会 WG のない月なので、流域圏懇談会の自主勉強会にしてはどうか。（蔵治）

★振り返り

よかったと思うこと：山部会が活気に満ちていること。/岡崎市環境部や林務課の参加が嬉しかった。/豊田市の森づくり計画が細かく設定されていたこと。/根羽村の木づかいの動きが確認できたこと。木づかいの資料がよかった。
よくなかったと思うこと：豊田市の森づくり計画に水のコントロール、景観の視点などが不足しているように思った。
今後、取り組んでいきたい活動など：森の健康診断を振り返り、行政が動くことは画期的なことなので、今後もしっかり実行してほしい。/岡崎市で取り組むための主体性の確保。

今後のスケジュール（予定）

次回の山部会 WG は、７月28日（金）～29日（土）根羽村にて開催します。

◆お問合せ◆
矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　調査係長 服部
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100

＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H29 山部会編 vol.3

発　行　日：平成 29 年８月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第４１回山部会WGを開催しました！

7月28日(金)～29(土)に第 41 回山部会WGが根羽村ネバーランドにて開催されました。今回の WG においても、流域再生担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域森づくりガイドライン、矢作川流域木づかいガイドラインの４つのテーマに関して、情報共有と意見交換を行いました。

日　時：平成２９年７月２８日（金）～２９日（土）
場　所：根羽村ネバーランド　サンホール　　参加者：１７名（事務局含む）

◆主な会議内容

1．流域再生担い手づくり事例集について

本懇談会も８年目をむかえ、調査対象を山から流域に拡大する必要性があることから、前回のWGにおいて、『山村再生』から『流域再生』に変更することになりました。７月 18 日に行われた第４０回川部会ワーキングでは、川の地先の問題に対して、事例集の作成を呼びかけました。今後の予定は以下の通りです。

①取材先の確定（9/8）　②取材担当者の確定（～9 月上旬）　③事前検討会（９月）　④取材（9～11 月）
⑤中間報告会（11 月）　⑥調査者によるレポートの作成・提出・交通費等の請求（12～1 月）
⑦振り返りの会（２月）　⑧事例集の完成（２月全体会議まで）⑨事例集交流会の実施（未定）

2．矢作川流域山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、以下の２項目の進行状況について情報共有と意見交換を行いました。

（1）矢作川感謝祭（９月２日実施）
昨日の矢作川感謝祭実行委員会では、以下の内容が決定した。
①前夜祭の開催　②会場の配置の決定　③森林組合、農業協同組合、漁業協同組合の３者が参加
④山の関係では根羽村森林組合（木づかい推進）、豊田森林組合（高性能林業機械の展示）、岡崎森林組合（岡森フォレスターズの演奏）の３団体の参加が決定

（2）「矢作川流域林業就労中堅離職問題実態調査」～矢作川流域担い手 100 人ヒヤリング
岡崎森林組合：組合よりヒヤリングの許可と組合員名簿をご提供いただいた。
豊田森林組合：組合長と専務に挨拶を行った。今後は各支所長より組合員名簿をいただく予定である。

3．矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

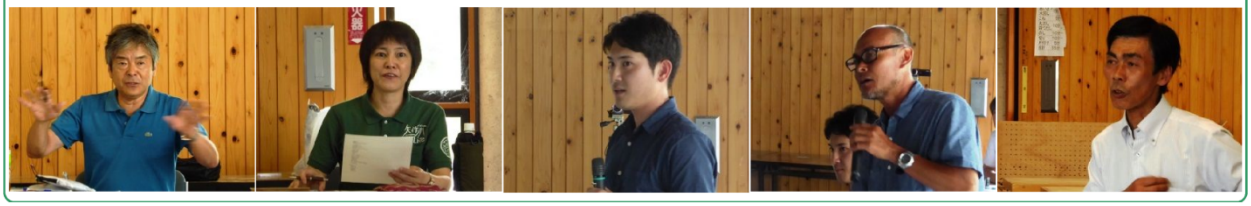
森づくりガイドラインでは、信州大学農学部修士２年の孝森博樹様に「スギ人工林における森林路網が下層植生に及ぼす影響」として、根羽村の事例をご報告いただきました。これまでの研究で明らかになったことは以下の通りです。
≪結果と課題≫もともと多様性の低い人工林では、森林路網によって種数が増加する場合、種の入れ替わりが起こることで、地域全体としては多様性が増加する。また、森林路網の多様性創出効果に関しては、光環境による影響は小さく、光環境以外の要因が関与している可能性があり、土壌水分など別の要因についても調べる必要がある。

4．矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインでは、天竜川鷲流峡（がりゅうきょう）復活プロジェクト代表の曽根原宗夫様に「河川敷に繁茂する竹林の活用方法」について、天竜川での事例をご報告いただきました。主な活動と効果は以下の通りです。

共通の課題『不法投棄』『放置竹林』 → 【地域】竜丘地域自治体 / 【事業者】天竜舟下り㈱ → 竹林伐採を通して地域と事業者が連携

地域に及ぼす効果：不法投棄ゼロの実現、次世代のための環境教育 など
事業者に及ぼす効果：景観維持による観光客の増加、事業者の魅力アップ など



◆話し合いでの主な意見 （• 意見　➢回答）

●流域再生担い手づくり事例集について

- 豊田市旭地区の敷島自治区、足助地区の萩野自治区、下山地区の和合自治区が主体的な活動をしており、是非取材を行いたい。（山本）
- 岡崎には、有限会社ファビナスという企業があり、綿花を利用したガラ紡を復活させるとともに、川の環境に配慮した草木染めなどに力を入れている。ちょうど、川の関係の団体という話が出たので推薦する。（沖）
- 今後も平谷、根羽辺りからも候補が出るかもしれないし、川部会からも多く出るかもしれない。現時点では豊田市を中心に多く挙がっているが、川との連携を優先しながら選定することにしたい。（丹羽）
  - ➢ ８月の第４１回川部会 WG の動きを考慮して、９月の第 42 回山部会 WG で決定する予定だ。（洲崎）

●矢作川流域圏山村ミーティングについて

≪矢作川感謝祭≫

- 前夜祭を前日の 18 時から始めることになった。内容は、夜釣りや飲食を予定している。（丹羽）
- 農協は何をするのか。（山本）
  - ➢ 地域ごとに異なるお米の試食会などを行う予定だ。（丹羽）
- 事務局として行うべき手続き等はあるか。（服部）
  - ➢ 高性能林業機械等の重機の持ち込み許可が必要なのでお願いしたい。（丹羽）
- 流域圏懇談会として、立ち寄れる空間を確保してほしい。これまでの成果を展示してもよいと思う。（山本）
  - ➢ 流域圏懇談会メンバーの拠り所を設けることにしたい。（服部）

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- 森林路網の整備が種多様性に及ぼす影響として、最初は光が要因だとして研究を進めてきたが、調査結果から他の要因の可能性が疑われるようになった。それは何であるか予想はつくか。（洲崎）
  - ➢ 森林路網の整備により地形が改変されるため、土壌水分が関わるのではないかと考えている。（孝森）
- 光という目の付け所はよいと思うので諦めないでほしい。路網の開設前後、その後の推移がわかるとよい。（大重）
- 根羽村では、今後新たな森林路網を開設する予定だ。継続的な調査を始めるチャンスであると思われる。（南木）
- 適切な場所に開設される森林路網は、種多様性を高める効果があるという流れにすることで本研究が活きてくると思う。この研究を活かせるストーリーの検討が必要だと思う。（洲崎）

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- 竹林の利活用に対する活動に感動した。ただ、これだけきれいにすると、竹がなくなる心配はないか。（近藤）
  - ➢ ５年以上の竹を皆伐し、その付近から伸びてくるものを親竹として残している。（曽根原）
- 竹林を撲滅させるにはどのような方法があるか。（丹羽）
  - ➢ まず、12 月～4 月までの低温期に地下茎を弱らせる目的として腰高で伐る。その後、3～4 年は新たに生じる芽を伐る作業を継続する。それくらいしないと撲滅はできない。（曽根原）
- メンマに使う部位は、タケノコが伸長した硬い茎でよいのか。（高橋）
  - ➢ メンマの加工にとって鎌でさくっと伐れる生長段階が最もふさわしく、あれが食品としての歯触りになる。逆に柔らかくて利用できると思われる生長点は使えない。先入観にとらわれないことが重要だ。（曽根原）
- 竹の筏は、流れが比較的緩やかな流域が適しており、水面を叩く音と振動が素晴らしい。（曽根原）
  - ➢ 是非、矢作川でも天竜川の筏を取り入れたい。（丹羽）

◆根羽村におけるフィールドワーク

①信州大学の研究フィールド
（案内人：孝森博樹さん）
森林路網と植物の種多様性について、状況確認を行った。

②帯状間伐の実施状況
（案内人：今村豊さん）
帯状間伐の成果と課題について、状況確認を行った。

今後のスケジュール（予定）

次回の山部会 WG は、９月８日（金）～9日（土）恵那・飯田にて開催します。　※9 日は勉強会

◆お問合せ◆
矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 松山、事務副所長 春日井
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100　調査係長 服部
＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H29 山部会編 vol. 4

発　行　日：平成 29 年９月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第42 回山部会WGを開催しました！

９月８日(金)～9(土)に第 42 回山部会WG・勉強会が恵那市・飯田市にて開催されました。今回の WG においては、流域再生担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域森づくりガイドライン、矢作川流域木づかいガイドラインの４つのテーマに関して、情報共有と意見交換を行いました。また、勉強会においては、河川敷に繁茂する竹林対策について、天竜川の成功事例を実体験しました。

日　時：WG⇒平成 29 年９月８日（金）、勉強会⇒９月９日（土）
場　所：WG⇒岐阜県恵那総合庁舎　５階 5A 会議室（13 名）、勉強会⇒天竜峡（13 名）

◆主な会議内容

1．流域再生担い手づくり事例集について

懇談会も８年目をむかえ、流域に視野を広げる必要性から、昨年度までの『山村再生』を改め『流域再生』でスタートすることになりました。今回は、これまでの山部会および川部会ワーキングで抽出された取材先団体から、21 団体を選定しました。山・川に関する取材先は以下の通りです。今後は、取材先担当者の確定と事前検討会を行う予定です。

【山の関係団体】　11 団体
・鷲流峡（がりゅうきょう）復活プロジェクト　・なつかしい未来の会　・すぎん工房　・敷島自治区　・山恵
・三州しし守社中　・めぇーぷるファーム　・足助きこり塾　・無門福祉会　・和合自治区　・（有）ファビナス

【川の関係団体】　10 団体
・愛知県土地改良区連合構成団体　・矢作川天然アユ調査会　・小渡セイゴ水辺愛護会　・矢作川漁業協同組合中和支部
・古鼡水辺公園愛護会　・橋の下世界音楽祭実行委員会　・内藤連三氏　・NPO 法人岡崎まち育てセンター・りた
・森を再生する会　・環境ボランティアサークル亀の子隊

2．矢作川流域山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、以下の２項目の成果と進捗状況について情報共有と意見交換を行いました。

（1）矢作川感謝祭
【経緯】山村と林業の担い手である森林労働者同士の話し合う場を提供する目的で検討を始めた。話し合う場としては、顔を突き合わせた意見交換より、イベントを通じて交流を図る方が効果的だとして、矢作川感謝祭への参加を決めた。
【成果】上流から根羽村森林組合、中流から豊田森林組合、下流から岡崎森林組合（岡森フォレスターズ）が参加するなど、街の人たちに林業の一端を知ってもらうことができた。また、森林組合間の交流が始まった。
【今後の目標】広報や企画、調整、とりまとめを懇談会として取り組む（より多くの懇談会員が主催者に加わる）。

（2）「矢作川流域林業就労中堅離職問題実態調査」～矢作川流域担い手 100 人ヒヤリング
①進捗状況⇒岡崎森林組合と豊田森林組合の５支所に説明と協力要請を行った。
②9 月に岡崎森林組合管内、10 月に豊田森林組合管内のヒヤリングを予定する。

3．矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインでは、蔵治座長より平成 29 年７月九州北部豪雨の現地視察結果（林道沿いの崩壊が何に起因する可能性があるのか）が報告されました。
・影響範囲：福岡県と大分県を中心とする九州北部（特に朝倉市）
・雨量の記録：３時間で 400mm、12 時間で 900mm（朝倉市の時間降雨量最大 169mm）
・流木量の暫定値：21 万m^3（空中写真より判読しているため、孔隙などを含んでいる）※東海豪雨の矢作ダムの６倍強
・流木形態：九州北部豪雨⇒多くの支川から筑後川に流れ込む（ダムに集積しない）、東海豪雨⇒矢作ダムに流れ込む。

4．矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインでは、今後の取組みに関して情報共有と意見交換を行いました。
①スギダラキャラバンの進捗状況⇒年間 36 回の出動を予定している。秋田県など県外とのつながりも増えてきた。
②木づかいガイドラインの作成依頼⇒まずは山村再生担い手づくり事例集の対象者に協力を呼びかける。
③木を使った市民参加型プレイスメイキング⇒安城市では既に実施済、豊田市では 11 月にイベントを行う予定である。
④事例紹介⇒岐阜県白川町では上流の山と下流の街を繋ぐ kodama project が行われている。
⑤その他⇒長野県針広混交林施業指針（長野県林務部）を紹介するとともに、今後の森づくりについて説明した。

◆話し合いでの主な意見 （• 意見　➢回答）

●流域再生担い手づくり事例集について

- 愛知県土地改良区連合会を構成する自治体として、流域外の半田市の団体が挙がっている。内容が適当であれば、矢作川流域外でも構わないと思う。その前に、もう一度流域内を調べていただきたい。（洲崎）
  - ➢ 岡崎市や豊田市に連絡をとり、関係する団体を探してみたいと思う。（山本孝）
- 橋の下世界音楽祭実行委員会は、豊田大橋の下で行われる野外フェスティバルで、今年で 6 回目になる。矢作川の川辺に新たな魅力を生み出したイベントとして、是非取材対象に加えたい。（洲崎）
  - ➢ 現在、山の取材先に含まれているが、川の取材先に含めるべきだと思う。（蔵治）
- 足助きこり塾は、大工職人をはじめ製材機なども完備していて、山の魅力を「見える化」している。今後、実体験を売りに発展していく可能性を秘めた団体である。（山本薫）
  - ➢ 近年、すごく発展している団体なので、是非取材対象にしたい。（洲崎）
- 矢作川沿岸水質保全対策協議会と内藤連三を一緒に取り扱うのは違和感がある。どちらかに絞るべきだ。（蔵治）
  - ➢ かつて流域再生を担った内藤連三氏について、取材対象にしたい。（服部）
- 今後は、取材に向けて取材者の確定と事前検討会を行えるよう、メーリングリストで周知したい。（洲崎）

●矢作川流域圏山村ミーティングについて

≪矢作川感謝祭に関して≫

- 川辺で森林組合間の交流が始まったのはすごく良いことだと思う。お祭りには、岡崎森林組合、豊田森林組合、根羽村森林組合が一堂に会することができた。（洲崎）
- 豊田大橋の下は広いので、立地条件が良いと感じた。周囲に人家がないので前夜祭から盛り上がれる。（今村）
  - ➢ 前夜祭も恒例行事化するとよい。（洲崎）
- 丹羽さんの文章に「広報や企画、調整、とりまとめは懇談会として取り組もう」と記されている。これはとても良いことで重要なことだ。（山本薫）
- 来年は、川や海のメンバーにも早めに周知して、全員参加のイベントにしたい。（高橋）

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- 泥岩と花崗岩では崩壊の仕方に違いがあるのか。（服部）
  - ➢ 堆積の様子をみると、粒径的にみても風化花崗岩で砂が多いように感じ、崩壊の仕方が違うと感じる。（中田）
  - ➢ 現時点では断定できないが、傾向はあると思う。（蔵治）
- 私は林道を専門としているが、林道の線形が尾根筋にあってとても理想的だ。その線形が尾根を逸れると、崩れやすくなる。それでも今回は崩れていることから、豪雨のすさまじさを感じる。（小島）
  - ➢ 尾根の線形と外れた林道は、多くの場所で崩壊がみられた。（蔵治）
- 地質と崩壊の相関については、雨域の影響の方が大きかったのではないか。（中田）
  - ➢ 指摘の通りで、尾根部において特に雨の量が多かったものと推察される。（蔵治）
- あまりに崩壊面積が大きいため、治山堰堤とかそういうレベルで何とかなる場所ではない。単なる災害復旧であれば、激甚災害と称して国費をつぎ込んでも治山堰堤を造ればよいが、こうも毎年全国で起きるようになっては、お金がいくらあっても足りないという印象をもった。そろそろ、新たなモデルをつくる必要があると思う。（蔵治）

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- いなかとまちの文化祭（11 月 25 日）では、豊田市駅のペデストリアンデッキで根羽村森林組合、矢作川水系森林ボランティア協議会、森の女子会が木づかいを展開する。また、同時期に松坂屋の市民活動センターでも豊田森林組合の木づかい推進が行われている。そのため、流域の木づかいを丸ごと体験できる良い機会になると思う。（洲崎）
- とよたまちさとミライ塾のプログラムは、ネットで閲覧できて、申し込みもできる。（洲崎）
  - ➢ 豊田市商業観光課が窓口だが、大変すばらしい取り組みだと思う。プログラムの説明会は、主催者が集まって 1 件ずつ 3 分くらいでプレゼンする。事務局はこいけやクリエイト西村さんが担当している。（今村）
- 「木づかいガイドライン」等の原稿作成準備についての協力依頼はそろそろ行うのか。（蔵治）
  - ➢ 近いうちに「依頼済み」と言えるようにしたい。（今村）

～天竜川における勉強会～

◆目的

今回、勉強会の舞台となる天竜川では、「天竜川鵞流峡（がりゅうきょう）復活プロジェクト（代表 曽根原宗夫さん）」の取組みにより、放棄竹林の有効活用に成功しています。特に、「竹いかだ」や「竹ボイラーによるお風呂＆シャワー」は有効活用の代表例と言えます。その実績を矢作川流域圏懇談会として体験することで、矢作川への導入の検討や導入に至るまでの課題について理解を深めることを目的としました。

【河川における竹林の拡大と対策の現状】我が国の河川はダムなどの治水対策によって、流域市民の安全が確保されてきました。一方で、それらの治水対策は、土砂の運搬の鈍化や高水敷の安定化等をもたらしました。高水敷の安定化は、植物の遷移に拍車をかけ、樹林化は全国的な問題になっています。とりわけ、西南日本の暖温帯地域では、マダケやモウソウチク等の竹林が繁茂し、河川の流下能力、生物多様性の低下、景観の悪化が課題となっています。竹は、地下茎を形成して拡大するため、伐採を繰り返しても、なかなか撲滅には至らず、財源的な問題から抜本的な解決に至っていないのが現状です。

◆主な活動内容

1：竹の工芸と竹いかだ

- 竹に文字を掘った「竹灯籠」は、中に光源を設けることで、幻想的な夜景を演出します。
- 竹いかだは適度なスリルがあり、子どもからお年寄りまで楽しめると思いました。水面を叩く音は圧巻でした！

2：竹炭づくり・竹ボイラーによるお風呂＆シャワー

- 無煙炭化機、無煙竹ボイラー（株式会社モキ製作所）による竹炭やお風呂を見学・体験しました！
- いかだで活躍した竹も老朽化すれば炭になります。放棄竹林の永続的な資源化ループを学びました！

～おわりに～
今回は、天竜舟下り株式会社の皆さんの厚い『おもてなし』のお陰で、放棄竹林の活用方法について理解することができました。矢作川でも活かしたいという動きが出てきました！

今後のスケジュール（予定）

次回の山部会 WG は、10 月 13 日（金）～14 日（土）岡崎市にて開催します。

◆お問合せ◆
矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 松山、事務副所長 春日井
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100　調査係長 服部
＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H29 山部会編 vol.5

発　行　日：平成 29 年 10 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第43 回山部会WGを開催しました！

10 月 13 日(金)～14(土)に第 43 回山部会WGが岡崎市にて開催されました。今回も、ひきつづき流域再生担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域森づくりガイドライン、矢作川流域木づかいガイドラインの４つのテーマに関して、情報共有と意見交換を行いました。特に、岡崎市の水循環創造プランの中の水量に関する見直しについては、最新の情報を共有することができました。

日　時：平成 29 年 10 月 13 日（金）～14 日（土）
場　所：岡崎市ぬかた会館　２階 2～3 会議室　　参加者：42 名（事務局を含む）

◆主な会議内容

1．流域再生担い手づくり事例集について

懇談会も８年目をむかえ、流域に視野を広げる必要性から、昨年度までの『山村再生』を改め『流域再生』でスタートすることになりました。これまでに、山部会および川部会 WG 地先モデルで抽出された取材先団体から、20 団体を選定しました。今回は取材担当を決めるため、希望を募りました。今後は取材担当者を確定し、取材を開始します。

≪山の関係団体≫　11 団体
・鷲流峡（がりゅうきょう）復活プロジェクト　・なつかしい未来の会　・すぎん工房　・敷島自治区　・山恵　・三州しし守社中
・めぇーぷるファーム　・足助きこり塾　・無門福祉会　・和合自治区　・（有）ファナビス

≪川の関係団体≫　９団体
・矢作川天然アユ調査会　・小渡セイゴ水辺愛護会　・矢作川漁業協同組合中和支部　・古鼡水辺公園愛護会　・内藤連三氏
・橋の下世界音楽祭実行委員会　・NPO 法人岡崎まち育てセンター　りた　・森を再生する会　・環境ボランティアサークル亀の子隊

2．矢作川流域山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、矢作川流域担い手（森林技能員）100 人ヒヤリングに関して情報共有と意見交換を行いました。

≪ヒヤリングを行う目的≫
かつて(15 年ほど前)は新規就業者の定着が大きな課題であったが、今は中堅技術者（就労４年～54 歳未満）の他産業への流出が課題になっている。このことを深刻な問題と捉え、その実態の把握と改善の糸口をつかむのが目的である。

≪進捗状況≫
各森林組合等の関係団体に調査協力依頼を行い、すべての団体より承諾を得た。
①岡崎森林組合：個別面談を３日くらい実施　②豊田森林組合：今後個別面談を実施
③恵南森林組合：今後面談を実施　④根羽村森林組合：今後面談を実施

3．矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインでは、以下の４項目について、情報共有と意見交換を行いました。

（1）矢作川流域圏の森づくりガイドライン
①矢作川流域圏の森づくりについての基本的考え方（木材生産と公益的機能のバランス、森林所有者や市民の責務など）
②皆伐一斉造林についての考え方（風化花崗岩地帯では、10～20 年後に崩壊リスク増大、搬出方法（架線系・道路系）、ニホンジカの食害リスク）
③搬出間伐についての考え方（間伐率、搬出方法（架線系・道路系））
④伐り置き間伐についての考え方（置き方など）

（2）岡崎市の水環境創造プランのうち水量に関する施策の見直しの進捗状況　特に森林の水源涵養機能の再生施策
・緑のダム部会からの答申（今年２月）をもとに、財源の確保を含めた改訂作業を進めている（今後３ヶ年）。
・今年度から環境政策課内に森林企画係が創設され、水循環と併せて保全啓発の業務を担うようになった。

（3）森林環境税に関する国の方針
⇒森林所有者、素材生産業者等、製材業者、木材需要者それぞれの課題、労働災害、自然災害に関する対応など

4．矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインでは、今後の取組みに関して情報共有と意見交換を行いました。
① 耕 Life「おいでん！根羽村！Season14」：矢作川最上流域の根羽村が、下流域で木づかい推進を繰り広げている
② これまでの木づかい推進の実績：豊田,安城,刈谷,蒲郡,東海,名古屋,売木,根羽,鳶木,長野など年間 40 回程度出動している
③ 木づかいガイドラインの意図するところ：８つ（木づかいを通して「一体化」「見える化」「人の輪」「共感」「魅力の発信」「原体験」「提案型の発想」「木の文化との触れ合い」）を目標に構築していく
④ あそべるとよたプロジェクト：11 月 23～26 日にどこでもライブラリー（本と木と人）で木づかい推進を行う

◆話し合いでの主な意見 （• 意見　➢回答）

●流域再生担い手づくり事例集について

- 自分は３団体くらいなら可能と考えている。しかし、取材者が公平に分担することが第一だ。（浅田）
  - ➢ 今年は１ヵ月程度進捗が遅れている。できる限り希望に沿うようにして、アナウンスしたい。（洲崎）

●矢作川流域圏山村ミーティングについて

≪矢作川流域担い手（森林技能員）100 人ヒヤリングについて≫

- 森林組合・組合長という立場から、ヒヤリングにはまったく干渉しないことを徹底している。我々に言えないことを少しでもつぶやいてくれたらありがたい。（眞木）
- 主伐から間伐に移行して、昔は下草刈りなど１年中山に入っていたが、今では 11 月から３月の季節労働者になってしまった。また、給料の安いのがネックで、就労後一定期間の補助が農業はあるが、林業にはない。（木俣）
- 山間地域の居住の選択肢が少ないのもＩターン者が就業しにくい理由だと思う。立派な空き家は増える一方なのに、それらをつなぐツールがないのが我々の悩みである。（眞木）
- 自分もＩターン者で、森林組合で働いている仲間も結構いる。ネガティブな発想だけではなく、前向きな意見も多く出ている。きっと話してもらえると思うので、じっくり聞いてみたいと思う。（庄司）

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

≪矢作川流域の森づくりガイドライン（素案）≫

- すごく興味があるが、いつごろ完成するのか。（曽我部）
  - ➢ 現在、豊田市で 100 年の森づくり構想のリニューアルを進めており、パブリックコメントを経て、来春完成するものと思われる。その内容も踏まえ、できるだけ早い段階で完成を目指したい。こういうガイドラインの作成に興味がある人がいれば、議論しながら一緒に作っていきたいと考えている。（蔵治）
- ガイドラインをつくることで、それらに拘束させようとする意図はあるか。（丹羽）
  - ➢ このガイドラインは何かを縛ろうという発想はまったくない。一方で、同じ流域は運命共同体なのだから、緩やかな参照すべき規範があってもいいだろうと思う。行政が作るルールとは違ったガイドラインにしたい。（蔵治）
- 山を持つ立場からして、今の林業家が皆伐をするということは考えていない。日本の森林が今後 10 年同じ状態が続いたら、大変なことになる。今ある人工林を積極的に活用する方向性を示していただきたい。（鈴木）

≪岡崎市の水環境創造プランのうち水量に関する施策の見直しの進捗状況≫

- この水量に関する見直しとは、森づくりを通じて河川水量を増やすことをめざした施策という判断でよいか。（洲崎）
  - ➢ 放置人工林をいかに解消するかに主眼を置いて、水量を上げることに取り組むということだ。（蜂須賀）
  - ➢ 土地所有者の確定、境界の確認という視点も含まれている。（蔵治）

≪森林環境税に関する国の方針≫

- 森林環境税には「環境」の概念が含まれるはずだが、国の森林管理方針には環境への配慮がみられない。（眞木）
- スイスやドイツの林業は、環境や公益機能を重視しながら木材の経済的価値を最大限に引き出そうとしている。日本の方針は、これらの国の対極を歩んでいると強く感じた。（洲崎）

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- 根羽村は長野県の村だが、つながりは愛知県など矢作川流域自治体の方が多いのか。（鈴木）
  - ➢ 補助金に絡む森林整備では、母体である長野県とのつながりが強いが、木づかいの推進に関しては流域を重視しており、愛知県など都市部との結びつきが強い。特に流域には 5 つの森林組合があるが、新規就労者が訪ねてきた場合、その条件によっては恵南森林組合にお願いするなど、森林組合間の連携なども図っている。（今村）

◆流域連携に関する情報提供

情報提供：近藤朗さん

①　連携の場の紹介

根羽村森林組合や安城市が関わる公園が、矢作川下流の油ヶ淵に来春開園する。

②　ごみに関するフォーラム

ﾏｲｸﾛﾌﾟﾗｽﾁｯｸは川と海の深刻な環境問題となっている。11/25 に岡崎市役所においてﾌｫｰﾗﾑが開催されるため、是非ご参加を！

◆岡崎市におけるフィールドワーク

≪流域の活動団体訪問≫

場所：ぬかた体験村

参加者全員で、柚子胡椒づくりを柚子の摘み取りから体験しました。体験村は今月オープンしたばかりで、地域の発展に貢献する勢いを感じました。

今後のスケジュール（予定）

次回の山部会 WG は、11 月 10 日（金）根羽村にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 松山、事務副所長 春日井

TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100　調査係長 服部

＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H29 山部会編 vol.6

発　行　日：平成 29 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第４４回山部会WGを開催しました！

11 月 10 日(金)に第 44 回山部会WGが根羽村にて開催されました。今回は、流域再生担い手づくり事例集、矢作川流域木づかいガイドライン、矢作川流域森づくりガイドラインに関して、継続した議論を行いました。特に流域の森づくりに関しては、下流域の市民（川や海の関係者）の捉え方に着目し、課題出しを行うとともに、課題解決に向けた意見交換を行いました。

日　時：平成 29 年 11 月 10 日（金）
場　所：根羽村老人福祉施設「しゃくなげ」　　参加者：11 名（事務局を含む）

木づかいに関する意見交換

◆主な会議内容

1．流域再生担い手づくり事例集について

懇談会も８年目をむかえ、流域に視野を広げる必要性から、昨年度までの『山村再生』を改め『流域再生』で５月からスタートしました。そして、今回の WG ではさらに議論を進め、「流域圏担い手づくり事例集」に変更することになりました。ただし、取材の内容等には大きな変更はありません。今後は、取材者が取材先に連絡をとり、取材を開始する段階に入りたいと思います。近日中に、メーリングリストを使ってアナウンスする予定です。

【今後の予定】
① 取材（～12 月）　② 中間報告会（12 月下旬）　③ 調査者によるレポートの作成・提出、交通費の請求（12 月～1 月）
④ 振り返りの会（1 月）　⑤ 取材集の完成（2 月全体会議前を目標）

2．矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインでは、以下の４項目について、情報共有と意見交換を行いました。

（1）木を使った市民参加型プレイスメイキング木づかいライブについて
・とよたミライ塾：本箱づくり（11 月 18 日～19 日開催予定）
・あそべるとよた 4days：どこでもライブラリー（11 月 23 日～26 日開催予定）

（2）田舎とまちの木づかいプレイスメイキング
・田舎：根羽村を例に森林・林業、水源、山地酪農、水辺環境といったさまざまな「場」を提供
・まち：豊田市や安城市を例に木の楽しさや魅力を伝えられる「場」を提供（木づかい推進）

（3）田舎のプレイスメイキングの参加について
・田舎の親戚制度：「田舎の親戚」、「田舎の先生（技術・技能）」、「田舎での活動の場」を確保する制度
・おいでん・さんそんセンターとの連携：田舎暮らしを希望する人への情報提供・案内
・労働参加型ミッション：田舎でプレイスメイキングのための労働を通して里山の技術・技能を身につける

（4））活動拠点となる小屋について
・建築確認が不要（10 ㎡以下）である二畳、三畳、四畳、四畳半、六畳タイプの５種類を検討

3．矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインでは、以下の６項目について、情報共有と意見交換を行いました。

（1）上流域と中下流住民との関心事の相違に関して（山川海の協働における課題）
・上流域（山）と中下流域（川・海）の関心事、情報共有ができていないこと、難しさを整理
・山部会のスタートラインは「山と山村の問題」「担い手の問題」「森づくりの計画」「木づかいの文化の醸成」の４つ

（2）国の規制改革推進会議の農林ワーキング・グループの今期の主な審議事項
①林業の成長産業化と森林資源の適正な管理の推進　②農業競争力強化と地域経済活性化に向けた農地の利活用の促進
③農地・林地に関する所有者不明の問題　④卸売市場法の抜本的見直し　⑤重点フォローアップ

（3）森林・林業政策の現状と課題
・人工林の齢級別面積の平準化　・事業地の確保、路網の課題　・市町村の責任の明確化　木材の流通システム　ほか

（4）規制改革推進室から依頼のあった項目についての説明資料
・林業における労働災害等の事故の状況　・森林や林野の所有・管理に伴う、公的あるいは民間の保険・共済制度の有無およびその普及状況について　・我が国林業の国際競争力について

（5）矢作川流域圏の森づくりガイドライン
①矢作川流域圏の森づくりについての基本的考え方（木材生産と公益的機能のバランス、森林所有者や市民の責務など）
②皆伐一斉造林についての考え方（風化花崗岩地帯では、10～20 年後に崩壊リスク増大、搬出方法（架線系・道路系）、ニホンジカの食害リスク）
③搬出間伐についての考え方（間伐率、搬出方法（架線系・道路系））　④伐り置き間伐についての考え方（置き方など）

◆話し合いでの主な意見　（• 意見　➢回答）

●流域再生担い手づくり事例集について

- ６月の WG で“流域再生”と名前を変えたが、流域再生とはいった何だという議論はしていない。山村再生ならイメージが掴めるが、流域再生の説明を求められた場合、答えに困る状況だ。（蔵治）
  - ➢ 確かにそうだ。山村再生は、農業・林業・水産業など中山間地域の振興をイメージできるが、流域再生には、その具体的なイメージができない。そもそも流域再生のままだと、取材先が恐縮する可能性がある。（洲崎）
  - ➢ 名称に「連携」の文言があると、該当しない団体が出てくため、「流域圏」にとどめてはどうか。（城田）
- 名称と活動内容が結びつかない団体に関しては、由来を示すとわかりやすい。（石原）

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- 本箱は、流域ものさしの目的と同様にコミュニケーションのツールのひとつという感想をもった。（中田）
- 本箱内の蔵書は、田舎の親戚制度を見据えて補助金で購入した。技能はこの本で学び、技術は村民に委ねる。（今村）
- 山地酪農で導入した子牛は、下草刈に一役かっている。動物も集客力にとっては重要なアイテムだ。（今村）
  - ➢ 昨年の勉強会で訪れた神奈川県山北町において、山地酪農が始まった。そのきっかけを作ったのは根羽村であり、この流域圏懇談会である。我々との交流が、新たな展開へとつながっている。（蔵治）
- 昨年の全体会議では、流域ものさしを参加者全員に配布しており、その活用について展開があった方がよい。（中田）
  - ➢ 材料はあるため、WG 内で作成することが可能だ。天竜川などの他の河川とのつながりを検討したい。（今村）
- 小戸名の源流の森や茶臼山北面の自然林は、安城市とどのような契約になっているのか。（城田）
  - ➢ 分収林契約になっており、平成 33 年で満期を迎える。現在、両者では伐採以外の活用方法を検討している（今村）

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

≪上流域と中下流域住民との関心事の相違に関して≫

- 平成 24 年の総合的な勉強会では、山・川・海で上流から下流までめぐりながら、部会間の認識の違いを埋めることに努めた。あれから５年が過ぎ、お互いの理解が進んでいないと感じる。合同勉強会のような機会が必要だ。（洲崎）
  - ➢ 例えば、下流域の人たちに森林を所有してもらい、所有者の立場を実感してもらってはどうか。（蔵治）
  - ➢ 森林所有者と一緒に山を見てもらうとか、体感しなければわからないことが多い。（今村）

≪規制改革推進会議　農林ワーキング・グループの内容ほか（国の森林環境税をめぐる動き）≫

- 森林所有者に対峙する行政職員があまりに林業を知らなければ、やる気がなくなる。そこで森林組合の役割が非常に重要なのだが、どの資料をみても森林組合という文言はみられず、その重要性が理解されていない。（蔵治）
  - ➢ 森林組合というのは、山だけを見るのではなく、地域の活性化を常に見据えるものだと認識している。（今村）
- シンガポール人が北海道の雪の価値を見出したように、よそ者のほうがうまく活用できる可能性がある。そのためには、決して流域圏の人だけといった閉鎖的な考え方をすべきではない。一次産業は未来の宝だと思う。（浅田）
  - ➢ 北海道のニセコ町は、外国の人や文化の流入に高いハードルを設けることで、ブランド力を高めている。そのため、日本の観光地の人気ランキングでは、１位が東京、２位が京都、３位がニセコとなっている。（蔵治）
  - ➢ 重要なキーワードはオープンだと思う。オープンにすることで、新しい知恵や経験を得ることができる。（浅田）
- 一次産業は宝との発言があったが、欧米と比べればすぐに理解できる。とにかく、都会人は自然に飢えている。（蔵治）
  - ➢ 東京で自然に飢えていて、田舎に生活を移した。だから、都会の人が何を求めているのかよくわかる。（今村）

≪矢作川流域圏の森づくりガイドラインについて≫

- 他の先進地域からいろいろなアイデアをもらうのは、国内のみならず海外をモデルにしてもいいと思う。（城田）
- 木材の価格は、製材業者の取り分によって大きく異なることから、どの程度のコスト圧縮が可能かは確認しておく必要がある。製材業者の経営方針によっては、地域性という特色を失いかねない。製材も込みにしている根羽村のモデルは、身動きがとりやすいことから、このモデルを全国に波及させるのも林業の生き残りの一つだと考える。（城田）
  - ➢ 豊田市に誘致される中核製材工場は、豊田市材などのブランドで売り出す予定で流域も視野に入れている。（蔵治）

今後のスケジュール（予定）

次回の山部会 WG は、12 月 15 日（金）～16 日（土）豊田市（足助）にて開催します。

◆お問合せ◆
矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 松山、事務副所長 春日井
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100　調査係長 服部

＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。